



モデル地区参加者との 意見交換会

2022年10月22日

みなみ野中学校区地域づくり推進会議

野牧 宏治

川口中学校区
地域づくり推進計画

地域の将来ビジョン

住みたくなる、住み続けられるまち川口
～自然と共生し、大人から子どもまでのつながりを大切に～



川口中学校区地域づくり推進会議

もくじ

1. 地域づくり推進計画の策定結果
2. 運営担当者のリアルな声

1.地域づくり推進計画の策定結果

■地域の将来ビジョン

住みたくなる、住み続けられるまち川口

～自然と共生し、大人から子どもまでのつながりを大切に～

◇将来ビジョンに込めた思い

「地域のあらゆる世代」、「地域の住みやすさ」、「自然の豊かさ」の3つのキーワードをもとに、地域に住む子どもから大人までの人々が、つながりや結びつきを大切にしていきたいという思いから将来ビジョンを決定しました。



生れ育ち、一度外へ出ても、
いつか大きくなって
戻っておいで。

1.地域づくり推進計画の策定結果

■アクションプラン

【優先的アクションプラン】

- プラットフォームづくり
～地域の情報や担い手が集まる場づくり～ ⇨課題(イ)、課題(オ)
 - ① コミュニティカレンダーづくり
 - ② マルシェの開催

【アクションプラン】

- 活動拠点の整備 ⇨課題(イ)、(エ)
 - ・ 地域資源(観光・自然・野菜など)を発信する場所の整備
- 地域情報の発信力の強化 ⇨課題(オ)、(カ)
 - ・ 地域での幅広い情報共有、SNS を活用するための環境整備
 - ・ 空き家、遊休農地を再利用しやすい環境づくり
- 地域コミュニティの活性化 ⇨課題(イ)、(カ)
 - ・ 地域での見守り隊を結成
- 行政との連携強化 ⇨課題(エ)、(オ)
 - ・ 担当所管との定期的な意見交換(双方向の情報共有の強化)
 - ・ 計画を実施するための組織づくり
- 交通利便性の向上 ⇨課題(ア)
 - ・ 交通(バス、タクシーなど)の利便性の向上
 - ・ 病院や学校、買い物への移動をサポート(コミュニティバスなど)
- 地域の担い手の育成 ⇨課題(ウ)
 - ・ 地域人材が将来的に戻ってきたくするための地域の魅力向上
 - ・ 計画を実現するリーダーや地域情報のインフルエンサーの育成

2. 運営担当者のリアルな声

■ 難しかったこと

- ① 過去に市の主導で開催した「ゆめおり市民会議2011」(2011年)、「八王子西インターチェンジ地区協議会」(2013~2017年)での検討が、どのように市の施策に反映され、どう取り組んできたかを問う声あり。この認識合わせを経てから、地域づくり推進会議はスタートラインに着けた。
- ② 現状、地域に色々な団体はある。しかし横串がなかった。その中でも町会の意見の影響力は大きいですが、加入率は50%以下というのも現実。誰と合意するのが課題となり、本計画の合意形成は難しかった。
- ③ 意見を尊重したい子育て世代が、地域づくり推進会議に出られない。
- ④ 活動への外国人の参画促進や、地域づくり推進計画の周知が難しかった。
- ⑤ 地域づくり推進会議の運営経費、メンバーの時間確保は課題。

■ 比較的うまくいっていること

- ① 中学校のボランティア部で子どもを預り、親は会議参加という方法も検討中。
- ② 中学校長の発案により「地域づくり推進計画(概要版)」を生徒に共有した。

2. 運営担当者のリアルな声

■ 自主運営の方法

- ① 23年度の市主導から地域運営の転換に向け、運営担当による打ち合わせを開始。
- ② 地域づくり推進会議には、地域課題を包括カバーできるメンバーを揃えた。

「参加者」から「運営主体」への
質的なシフトは課題

■ 運営担当の活動内容

推進会議の議題調整

例) ・地域づくり推進計画の内容を周知すること。

- ・各部会（アクションプランの取組単位で設置）の進行状況を共有すること
- ・川口地区の公園整備計画について、把握・周知すること。
- ・川口中学校区に整備予定の義務教育学校のプランに参画していくこと。

■ 組織全体としての主要な活動

若い人が必須

- ① コミュニティカレンダー作成と周知（互いの活動を知り、つながる）
- ② マルシェ活動（人材発掘、農家連携、成果見えやすそう）

あなたのみちを、
あるけるまち。

